

芸術家派遣事業

February 2009

中国琵琶と小学生

昨年実施した学校での鑑賞会で印象に残ったのは神奈川県の小学校での中国琵琶のソロ・コンサートでした。

「文化庁芸術家派遣事業」の企画で中国琵琶の何 晶(he Jing)さんが呼ばれ、私は助手として参加。依頼先の学校は川崎市内のキリスト教精神に基づいた私立小学校、対象は5,6年生200人。

何 晶さんは日本語は大丈夫ですがコンサートでは演奏中心、一人だけでお話するのは辛いとのこと。進行と解説補助をすることに。

今回の事業の趣旨が演奏だけでなく生徒との交流も含めたレクチャーコンサートの意味合いもあって学校側の希望は2時間。ソロのコンサートでも2時間は大変です。

依頼を受けてから、どうしたら生徒さんと有意義な時を共有できるかと悩みました。

普段は構成原稿を書いて出演者に注文をしたりするのが逆の立場になり公演が迫るにつれ宿題を残した学生の気分。

何晶さんにも“音楽や文化”への思いを語ることが今回の趣旨でもあると理解していただき曲目や内容を練ってお互いの意思を統一しました。

琵琶がペルシャを起源としてシルクロードを経て中国にそして奈良の正倉院にも伝わったことで、シルクロードをテーマに構成してみた。

<シルクロードの話> <楽器解説、文曲・武曲等の奏法の違い> <琵琶演奏体験> <二胡や日本の琵琶との違い> <日本と中国の文化の話> 演奏の合間には曲の大意などを伝えながら進行することとした。

そして迎えた公演当日、天気にも恵まれ、銀杏並木の美しい晩秋の小路を歩いて学校へ、担当の先生に温かく迎えられるました。

客席には、興味一杯に爛々と輝く400の瞳！輝くプレッシャー！

最初に「想像して情景や心象を描くことが音楽を鑑賞することの鍵」と話し、“楊貴妃”の衣装を模った装いで何晶さんが舞台上に現れた時、生徒から「ワー綺麗」と感嘆の声があがり舞台が明るい彩りに包まれ演奏会がスタートしました。

<質問コーナー>では生徒さんの鋭い質問にウームと唸ったりもしながらも終始生徒さんの集中力に支えられ、ラストは何晶さんの伴奏で先生と生徒さんがこの日の為に練習してくれた中国の民謡「太湖船」の合唱ではジーンと目頭が熱くなるエンディング。

後日「生徒さんの感想文」が届き拝読。当方の意図を理解して演奏に集中していたかを知ることが出来ました。

“想像する(imagine)”を鍵にして皆それぞれの心の絵が描けていました。{「天山之春」では、桜の花びらが落ちていく様子が浮かびました。「太湖船」では舟遊びをしている情景が想像できた}等々  
長年、鑑賞会を実施していると便宜的なことを先行して、生徒さんとの関わりがパターン化しがちです。試行錯誤しながら創る大切さ、鑑賞教室の原点に戻れた貴重な経験でした。